

【子どもの事故に関する救急統計について】

「子供の事故防止に関する関係府省庁連絡会議」の取組みとして、令和2年度「子どもの事故防止週間」が7月20日から26日まで実施されることに合わせて、郡山消防本部管内で過去に発生した子ども（0歳から12歳まで）の事故に関する統計を取りまとめましたので公表します。

※ 2010年から2019年までの数値

※ 小数点を含むものは小数第二位を四捨五入した数値

※ 一般負傷事故とは、交通事故などに分類されない一般的な負傷で、転倒、転落、やけど、誤飲などをいう

1 一般負傷事故内容別の救急搬送人員

過去10年間（2010年から2019年まで）の0歳から12歳までの子どもの一般負傷事故による救急搬送人員は、2,126人となりました。

内容別にみると、「転倒（転ぶ）」が617人で最も多く、次いで「やけど」が345人、「転落（落ちる）」が335人と続きます。

「転倒」による救急搬送人員で最も多い年齢は、2歳（93人）、次いで1歳（83人）、3歳（68人）と続きます。

「やけど」による救急搬送人員で最も多い年齢は、1歳（105人）、次いで0歳（71人）、2歳（70人）と続きます。

「転落（落ちる）」による救急搬送人員で最も多い年齢は、0歳（80人）、次いで1歳（69人）、2歳（64人）と続きます。

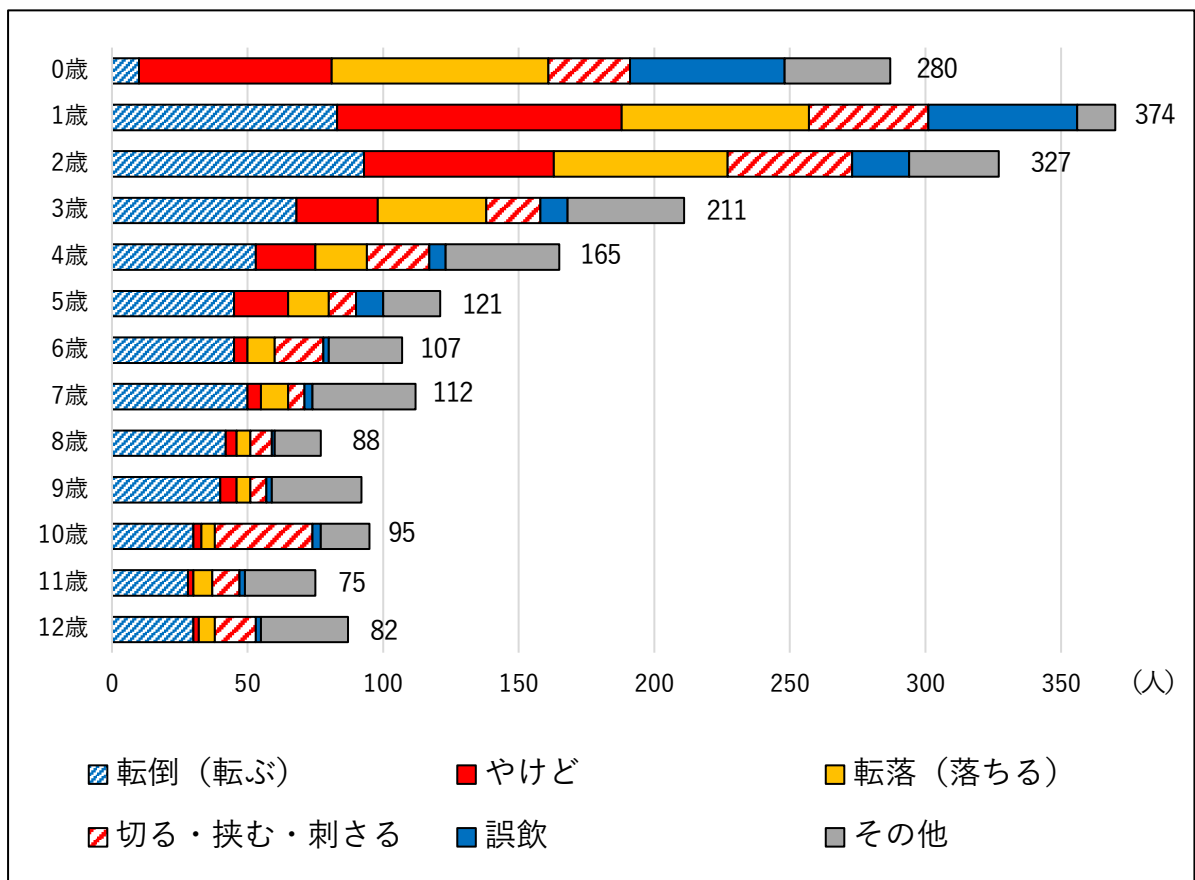
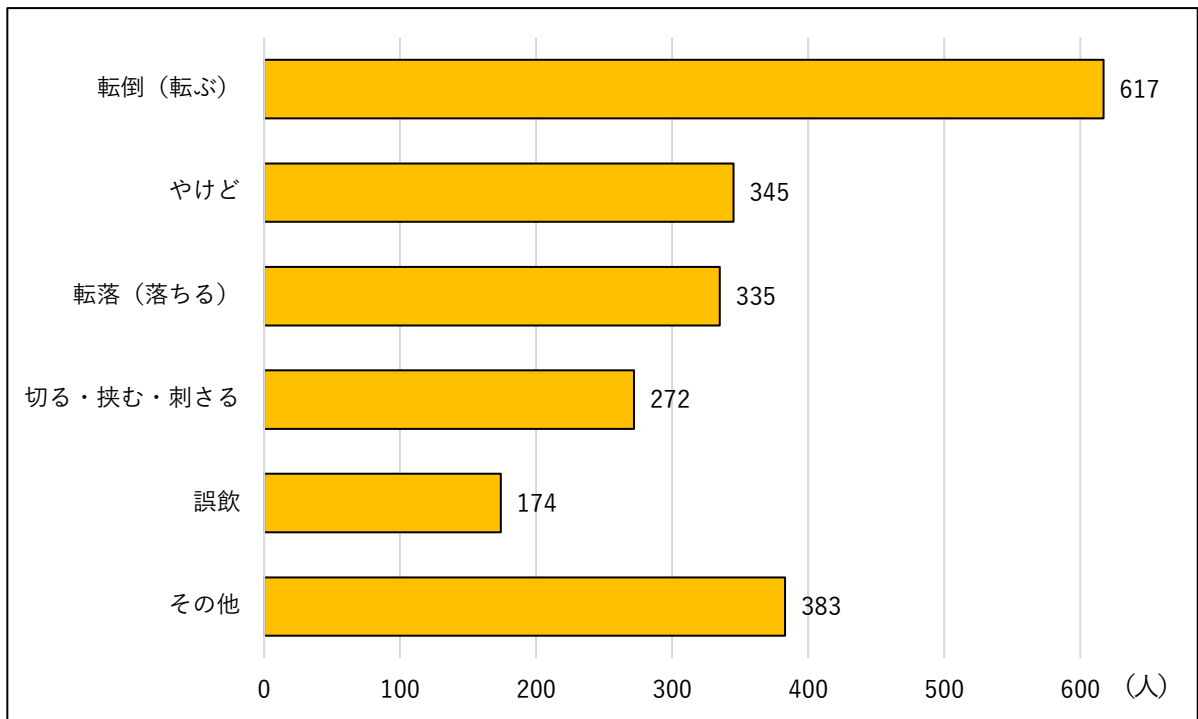
「誤飲」による救急搬送人員で最も多い年齢は、0歳（57人）、次いで1歳（55人）、2歳（21人）と続きます。

0歳から3歳までの年齢で全体の約6割を占めています。

これらは、親など周囲の大人の不注意によるケースが多いことが分かります。

子どもの動きは予測がつかない一方で、常に目を離さないでいるのも困難です。

事故を未然に防ぎ、万が一事故が起きた時でも危害を最小限に出来るよう、子どもの目線に立って、家の中の家具等の配置、外出先での危険な場所等、常に確認する習慣をつけましょう。



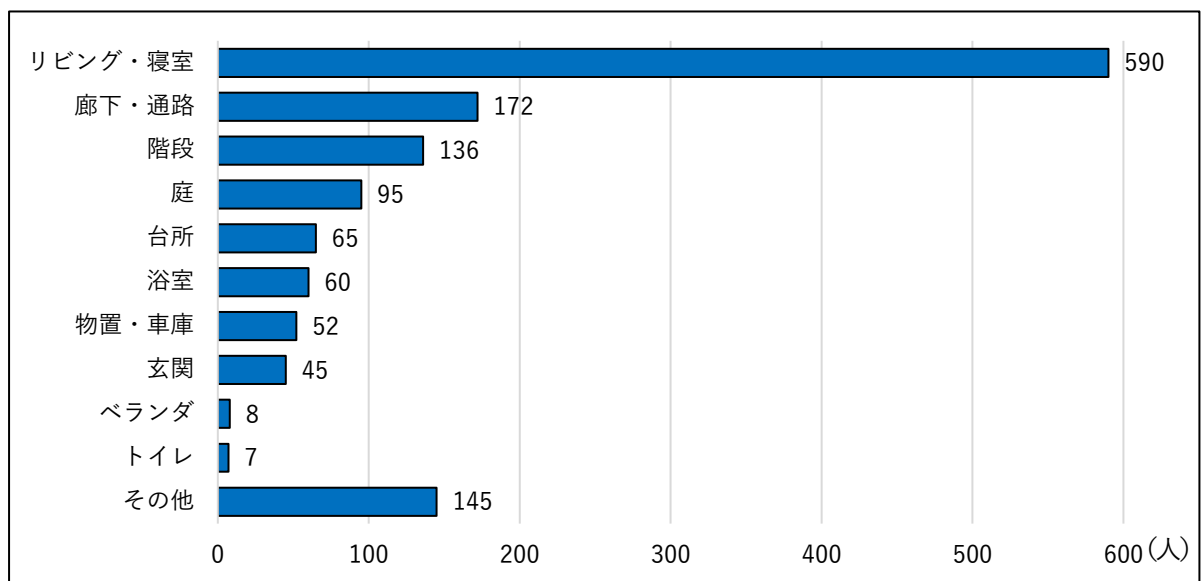
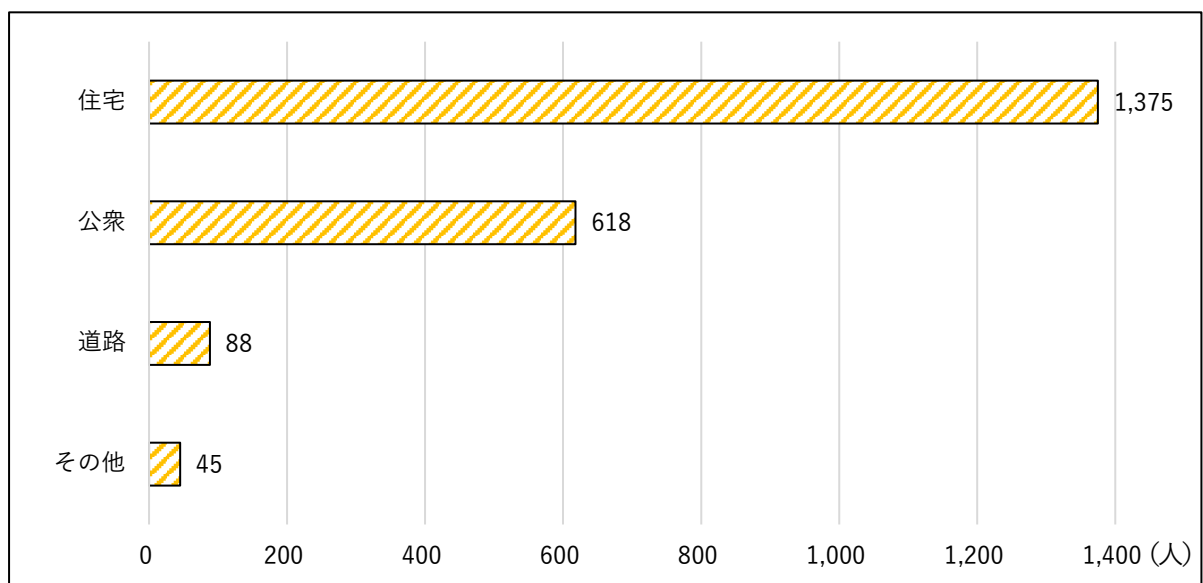
2 一般負傷事故発生場所別の救急搬送人員

発生場所別にみると、「住宅」が1,375人で最も多く、次いで「公衆」が618人、「道路」が88人と続きます。

6割以上が「住宅」で発生していることが分かります。

また、「住宅」での詳細な発生場所をみると、「リビング・寝室」が590人で最も多く、次いで「廊下・通路」が172人、「階段」が136人と続きます。

これらのことから、事故が起こるのは、普段から生活している空間で多く起こっていることが分かります。



3 一般負傷事故による救急搬送人員の男女別件数

男女別件数を比較すると、0歳から12歳すべての年齢で、男児の件数が女児の件数を大きく上回っていることが分かります。

全年齢における男女別の比較では大きな優位差がないことから、この傾向は子どもにおける特徴であることが推測されます。

